

私は札幌で生まれ、高校・大学さらには現在の勤務先とずっと札幌で暮らしています。就職する段階では、この業界がどのような仕事をしているのかもわからず、大学で専攻していた内容を少しは生かせるのでは、といった程度の理由で現在の勤務先を志望しました。以来、今年で入社8年目になります。

入社以来、漁港や海岸における整備計画に関する業務に携わってきましたが、上記のような理由でこの業界に入ってきたこともあり、入社当時は自分の仕事はなんの役に立っているのか、実感がわかない中で仕事をしていたのを覚えています。その後、徐々に仕事の面白みが分かってくるようになり、今ではやりがいのある仕事であると感じています。先日、自分が計画に携わった海水浴場に家族で遊びに行く機会がありました。仕事の内容を妻に伝えることでちょっとした優越感に浸ることができ、家族に誇れる仕事であることも実感できました。

技術士は平成24年度の試験にて水産部門で合格しました。合格できた一番の要因は、周囲の方々の指導・サポートであったと感じています。親身に指導して頂き、大変感謝しております。技術士の定義の中に“指導”という項目も入っており、これが一番重要だろうと考えます。私がこれまで諸先輩から受けた恩、またこれから受ける恩は、“指導”という形で後輩へと返していければと考えております。近年、業界全体として若者の育成が課題となっておりますが、私が諸先輩から学んだやりがいや楽しさ、時には厳しさを若い方々に伝えていくことで、先の課題解決に少しでも貢献できればと考えております。

八木澤 一城(やぎさわ かずき)

●水産部門(水産土木)

勤務先

株式会社アルファ水工
コンサルタンツ



→次号は、新居久也さん(水産部門)

私は、釧路生まれの北海道人です。父の仕事の関係で、小学校高学年の時に、室蘭市の絵鞆岬付近に住んでいたことがあり、近所にあった縄文時代の貝塚から貝殻や土器の欠片を収集するなどの遊びをしたことが、地史や地質に興味を持つきっかけになりました。入学した北海道の大学では火山地質学を学び、大学院を修了した後は、平成13年度に現在の会社に就職しました。入社当時は、業務に必要な専門知識や論理的思考が全く身につくおらず、怠惰な学生生活を後悔しました。しかし、そんな私でも上司や諸先輩に恵まれ、厳しくも暖かい指導によって年々技術が身に付き、平成19年度には技術士試験に合格しました。ただ、その指導内容は、一緒に現地踏査をすることや、報告書を添削するなどのOJTであり、技術士試験の前にも特別なことをしたことはありません。こうしたOJTには、技術士としての大事なことがたくさん詰まっていたのだと、大変感謝しております。

入社以来、従事した業務は、主に道路斜面やトンネルを対象とした調査や解析業務です。調査や解析の成果の説明は、主に平面図や断面図によって行いますが、複雑な構造はイメージが伝わりにくいと言われます。このため、最近は成果のアウトプットには「誰にでも見える」ことが重要であり、それには、地盤モデルの三次元化が有効だと考えています。また、モデル化をする過程は、様々な段階の調査結果の矛盾を明確にし、修正の必要性を浮き彫りにする重要な役割を果たし、質の高い地質解析に貢献します。今後は、国土交通省が進める土木分野へのCIMの導入にも質の高い地質解析が要求されることが予想され、地質技術者の重要性が高まっていくのではないかと思います。今後も技術力を向上させ、北海道の持続的発展のため、自分の考えを持って様々な業務に取り組んでいきたいと思っています。

本間 宏樹(ほんま ひろき)

●応用理学部門(地質)

勤務先

応用地質株式会社
東京支社北海道支店



→次号は、中田智広さん(建設部門)